

## 施策評価調書(4年度実績)

				施策コード	Ⅱ-2-(5)			
政策体系	施策名	多様で厚みのある産業集積の深化	所管部局名	商工観光労働部			長期総合計画頁	93
	政策名	活力と変革を創出する産業の振興	関係部局名	商工観光労働部				

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	大企業や研究機関等の活用による 新たなイノベーションの創出	本県産業の基盤となる産業集積の推進	次代を担う産業の育成

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		4年度			6年度	目標達成度(%)									
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125					
i	中小製造業の製造品出荷額(億円)	①	H25	11,731	13,546 (R2)	12,530 (R2)	92.5%	14,375 (R5)										
ii	食品出荷額(億円)	②	H25	2,719	3,135 (R2)	2,651 (R2)	84.6%	3,327 (R5)										
iii	医療機器製造業登録事業所・製造販売許可事業者数 (件・累計)	③	H30	31	36	24	66.7%	40										

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価		理 由 等	平均評価
i	概ね 達成	非鉄金属、輸送用機械器具、窯業・土石製品など9業種において、製造品出荷額等が増加したことにより、目標値を概ね達成した。なお、実績値に使用している国の工業統計調査がR4から経済センサスに統一されたため、目標値、実績値ともに最新の経済センサス実績値(R2確報値)を記載している。	達成 不十分
ii	達成 不十分	新型コロナウイルス等の影響を受け、経済センサスの製造品出荷額等の実績値は低迷したことにより、目標値の達成が不十分となった。上記同様、実績値に使用している国の工業統計調査がR4から経済センサスに統一されたため、目標値、実績値ともに最新の経済センサス実績値(R2確報値)を記載している。	
iii	著しく 不十分	複数の製造業登録事業所を保有する企業による製造拠点集約等により目標値を達成できなかった。	

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・産業科学技術センターと県内企業で共同開発したドローンの飛行性能を安全に評価・検査できる「ドローンアナライザー」を機体認証制度で活用すべく、ドローンアナライザーを用いた試験方法の開発を行った。
②	・食品関連産業では、商品開発支援や人材育成、販路開拓に向けた大規模展示会出展やHACCP講習による品質管理の高度化を支援した。 ・自動車関連産業では、金型保全技術者育成講座といった企業の技術力強化の取り組みや、セミナー・試作補助等の電動化参加を通じた支援を実施した。 ・半導体関連産業では、企業の技術開発や大学・高専と連携した研究事業を支援し、またウェブを活用した海外との商談会等に取り組んだ。
③	・大分県医療ロボット・機器産業協議会では、県内企業による医療関連機器等の開発支援や、県内企業が開発した機器の販路拡大を支援するための共同出展を行ったほか、医療・介護・福祉従事者による県内企業の機器評価を行う取り組みを開始した。 ・大分県エネルギー産業企業会の活動を通じ、水素サプライチェーン構築に向けた実証事業を実施するとともに、次代を担う水素エネルギー産業の事業化に向けた支援や情報共有を図るため、企業会に設置した水素関連産業分科会において事例発表やマッチング、水素関連実証地の視察などを実施した。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(4年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	ドローン産業振興事業	100.0	216
②	食品産業需要適応支援事業	250.0	230
	おおいだLSIクラスター構想推進事業	228.6	230
③	自動車関連産業企業力向上事業	106.8	230
	医療機器産業参加加速化事業	66.7	231
	エネルギー関連産業成長促進事業	120.0	231

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○第7回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(R4.8) ・大分コンビナートのカーボンニュートラルは技術的にはハードルが非常に高いが、地元で雇用を続けて行くには最低限やらなければならない取り組み。これを進めていくには大分県の旗振りが必要。例えば、ロードマップを作成して進めて具体化していくなどしてもらいたい。	○大分県中小企業活性化条例推進委員会(R4.10) ・半導体業界は今、流れが大きく変わりつつある。熊本で台湾の半導体企業が立地することになり、大分でも、今後間違いなく大きな影響が出てくるだろうと懸念している。県としてどのような方向性で取り組んでいくのか示していく必要がある。
---	--

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車関連産業では、電動化分野へ参加しようとする企業に対するセミナーや技術的な支援、試作開発の補助を行うとともに、新たにチームリーダー層育成のためのセミナーにより、生産性向上と企業ニーズに応じた人材育成・確保の取り組みを進めていく。</li> <li>・半導体関連産業では、取り巻く動向を注視しながら、新しい分野・市場への進出やトップシェア獲得に向けチャレンジする地場企業に対し、研究開発・販路開拓の面から支援を行う。特に、喫緊の課題である人材育成に関しては、九州半導体人材育成等コンソーシアムとも連携しながら、社員のリ・スキリングを支援するとともに、教育機関においては、実践的な技術指導を行う産学連携講座などを積極的に展開する。</li> <li>・食品産業では、大規模展示会の出展を通じた販路開拓などに加え、商品開発の実践研修やHARPCに関するセミナーなどを新たに展開する。</li> <li>・医療・介護・福祉機器等については、大分大学医学部附属臨床医工学センターや医療・看護・介護・福祉従事者と企業との連携を支援するとともに、医療機器等販売ディーラーとの交流を積極的に行い、市場を見据えた機器開発・販路拡大の支援に努める。</li> <li>・地熱・温泉熱や小水力等本県の強みを活かしながら、引き続き県内におけるエコエネルギーの導入及び水素等の次世代エネルギーに関する研究開発を支援していくとともに、水素サプライチェーン構築に向けた事業に取り組んでいく。</li> <li>・大分コンビナートの事業継続とカーボンニュートラルの両立による「グリーン・コンビナートおおいだ」の実現に向け、産学官連携の下、2030年、2050年を見据えて向かうべき方向性(ありたい姿)を関係者共有の将来ビジョン、ロードマップとして策定する。</li> </ul>